

トビウオ通信 (7月号)

(TEL 0855-22-1720)

《 11

平成11年1～6月の浜田市漁協所属の中型まき網船4統による主要浮魚類の漁獲状況をお知らせいたします。主要魚種(マアジ、マサバ、マイワシ、ウルメイワシ、カタクチイワシ)の漁獲量(図1)を見ると、漁獲の主体は、カタクチイワシ、マアジ、マサバで、6月までの漁獲量は約8,300トンとなり昨年の64%、平年(過去10

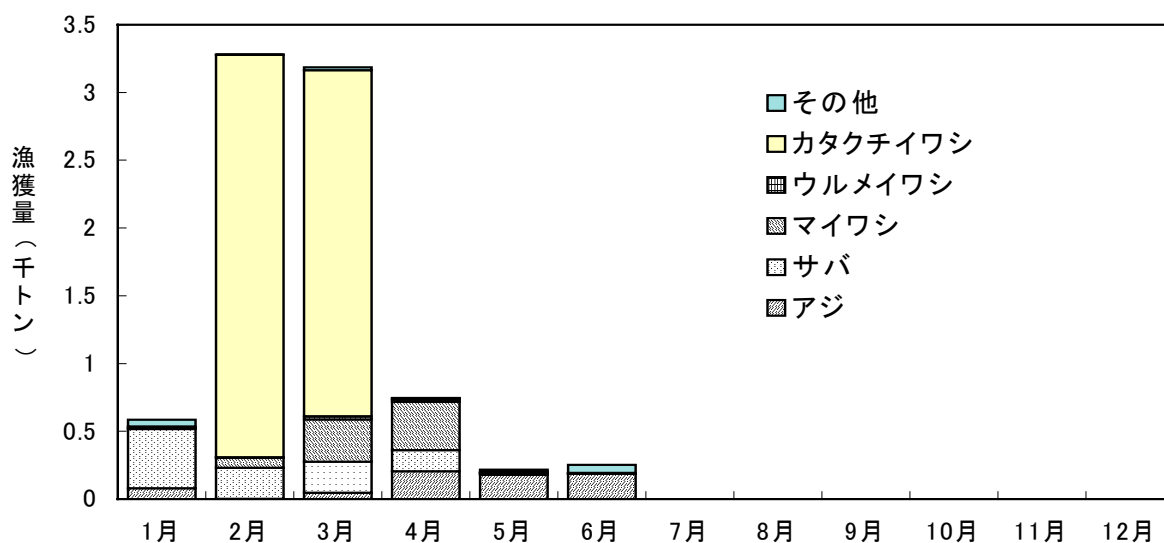


図1 平成11年浜田市漁協の中型まき網による漁獲量の推移

ヶ年平均)の24%となりました。特に2～3月のカタクチイワシは非常に好調に推移しました。

魚種別に、同期間(1～6月)の漁獲量を、過去10年の平均(平年値)と比較しました(図2～6)。

マアジは非常に低調で、6月までの合計は約700トンで、平年の16%の漁獲量となりました(図2)。漁獲の主体は1歳魚(尾叉長15～20cm)でしたが、6月には0歳魚(尾叉長5～10cm)も混獲されました。

漁獲が不振だったのは、昨年の春～夏にかけて生まれた0歳魚の資源が非常に小さく、今年(1歳)になってもその影響が

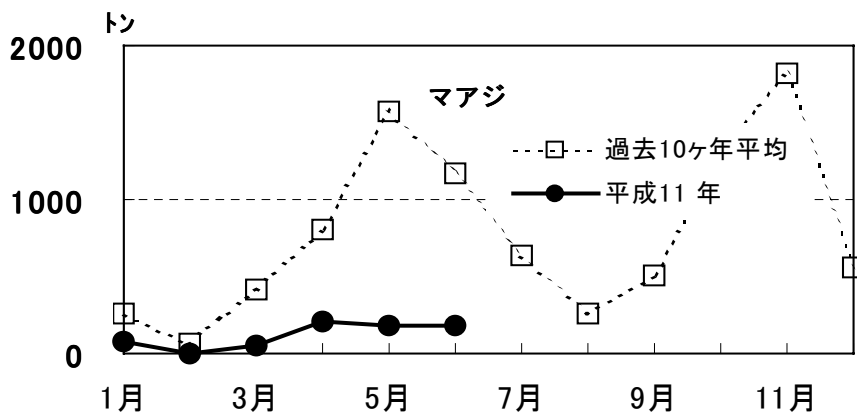


図2 浜田の中型まき網によるマアジ漁獲量

大きく現れたものと思われます。この傾向は山陰西部から九州沿岸及び、東シナ海にかけても同様で、春の1歳魚の漁は極めて不振でした。春魚が不振になるということはある程度予測されていたのですが、それ以上の落ち込みとなりました。しかし資源水準は高いので、今年の0歳魚の発生状況が良ければ、秋以降は豊漁になる可能性があ

ります。

マサバは6月までの漁獲量が1,061トンで、極端に不振だった昨年を上回ったものの、平年の19%にとどまりました(図3)。漁獲の主体は豆サバ(1歳魚)で、若齢魚主体の漁となっています。近年の対馬暖流域のマサバ漁獲量は激しい変動を繰り返しており、漁況予測は非常に難しいのですが、昨年の漁獲状況から判断すると資源状態は決して良いとは言えません。

マイワシは依然として低水準にあります。6月までの漁獲量は753トンで、平年の3%と低い水準ながら、昨年の約2倍の漁獲となりました(図4)。しかし、今後も低水準傾向は続くと考えられます。

カタクチイワシは今年も好調で、6月までの漁獲量が5,542トンで好調だった昨年を更に上回り、昨年の3倍、平年の6倍もの漁獲がありました(図5)。漁獲の主体は1歳魚と考えられ、近年の漁獲のピークは2~3月に見られるようになってきました。現在対馬暖流域で最も資源状態が良好なのは

カタクチイワシであると考えられます。

ウルメイワシは低調に推移しており、平年の12%程度の漁獲となっています(図6)。しかし、主分布域である九州西岸海域での漁獲量は安定しており、夏期に山陰沖まで分布を広げれば、平年並みの漁獲は期待できると思われ

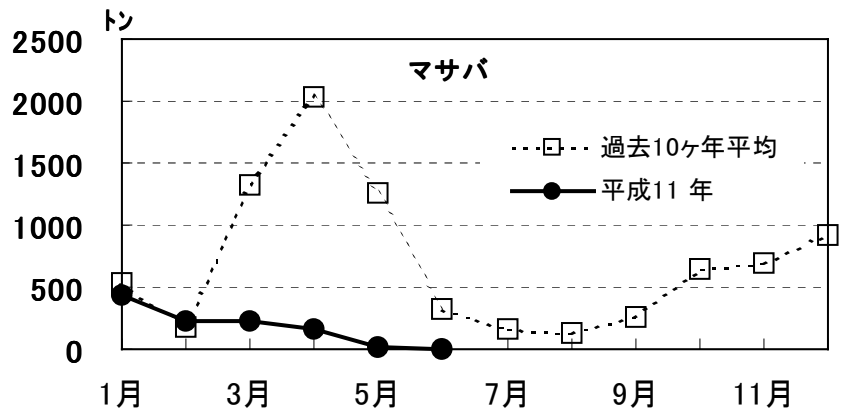


図3 浜田の中型まき網によるマサバ漁獲量

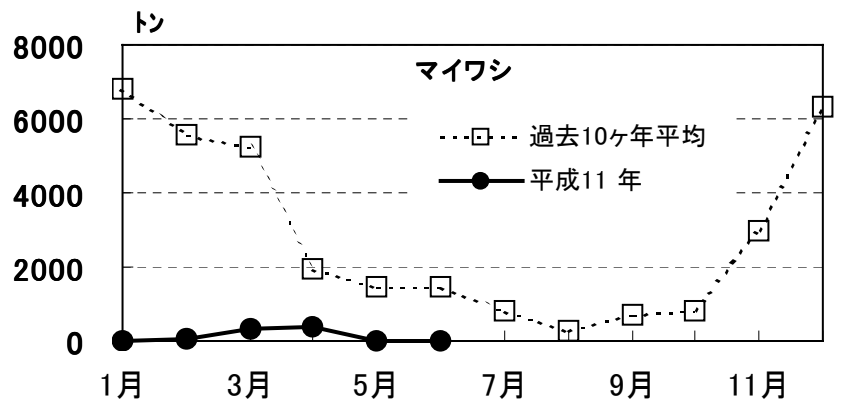


図4 浜田の中型まき網によるマイワシ漁獲量

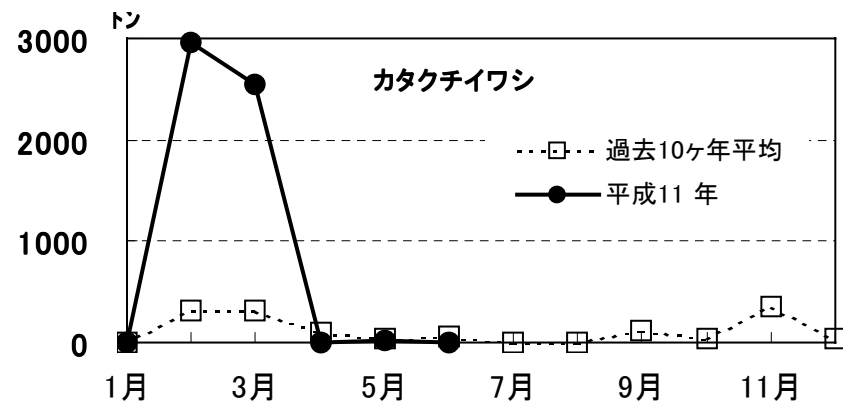


図5 浜田の中型まき網によるカタクチイワシ漁獲量

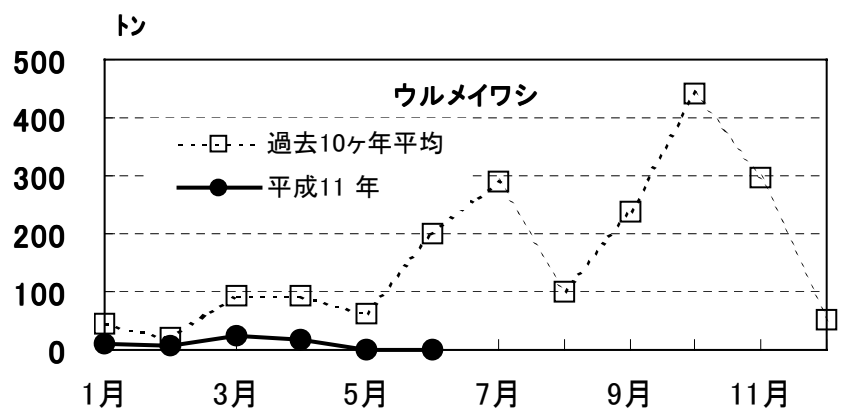
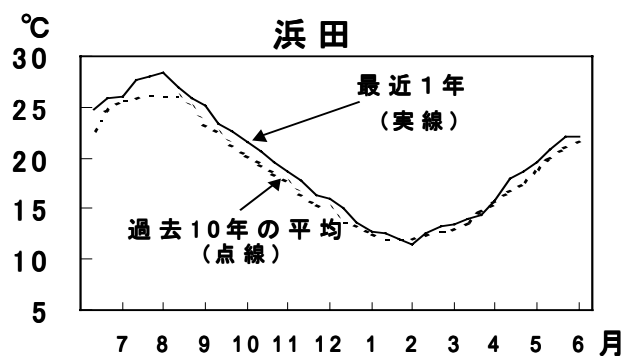


図6 浜田の中型まき網によるウルメイワシ漁獲量

《 6月の海況 》



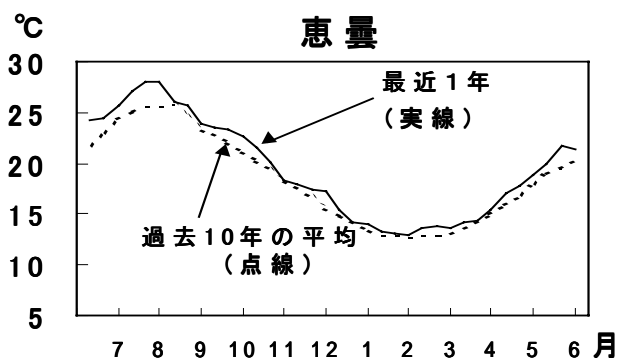
定地水温

6月	月平均	平年差	評価
浜田	21.6	+0.8	やや高め
恵曇	21.0	+1.3	やや高め

6月の月平均水温は5月に比べ浜田で2.9、恵曇で3.1上昇し、浜田・恵曇ともに平年に比べ「やや高め」の水温経過となりました。

日本海区水産研究所および各県水産試験場が行った海洋観測結果(6月下旬~7月上旬)によると、山陰海域の水温は冷水域の周辺では平年より低くなっているところも見られますが、全体的には上層では平年並みから平年よりやや高め、中・下層では平年よりやや高めからかなり高めとなっていました。

また、7月の山陰海域の水塊配置は、中・下層を中心に日御碕北西60~70マイルおよび隠岐諸島北北西90マイルに冷水塊が張り出しており、6月に引き続き複雑な海況となっていました。



《 6月の漁況 》

【中型まき網漁業】

浜田港の中型まき網の総漁獲量は253トンで、前年の19%と、極めて低調に推移しました。水揚げ金額はマアジの価格が高かったため、前年の113%とこちらは前年よりもやや好調に推移しました。漁獲の主体はマアジ、スルメイカ、ケンサキイカでした。また、恵曇ではマアジ、マイワシ、カタクチイワシを主体に589トンの漁獲がありましたが、前年の49%にとどまりました。浦郷でもマアジ、マイワシ主体に2,025トンの漁獲があり、前年の55%の漁獲となりました。

【イカ釣り漁業】

浜田港に水揚する地元小型イカ釣り船によるイカ類の漁獲量は、ケンサキイカ(2.5~3.5段入り主体)を中心に5,197箱で、前年の171%、平年の68%でした。浜田市漁協以外の小型イカ釣り船では、スルメイカ(20~25入り主体)、ケンサキイカ(2.5~3.0段主体)を中心に28,662箱の漁獲があり、前年の348%、平年の167%と好調に推移しました。また、西郷港における沿岸の小型イカ釣りによる漁獲量はスルメイカを中心に42.8トンで、前年の365%と非常に好調に推移しました。

【バイかご漁業】

6月から始まった県西部バイかご漁業(5隻、仁摩漁協は除く)は漁期開始時から好調に経過し、月前半には1トン/航海を越える漁をする船がありました。エッチュウバイの漁獲量は47.4トン(前年比:121%)、水揚げ金額は2,449万円(前年比:96.1%)で、また1航海当たりの漁獲量は730kg(前年比:111%)であり、平成7年漁期に次ぐ漁獲でした。一方、エビ類(モロトゲアカエビ、イバラエビ)の漁獲量は2.2トン(前年比:90.5%)、水揚げ金額は82.5万円(前年比38.5%)で、量、金額とも前年を下回りました。今漁期は価格の高いモロトゲアカエビの漁獲量の減少が大きく、逆に価格の安いイバラエビが漁獲の中心のため水揚げ金額が前年を大きく下回る結果となっています。

【シイラまき網漁業】

仁摩・五十猛・和江・大田市各漁協の合計の水揚げは 144 トン、2,650 万円と昨年を下回りましたが、平年をやや上回りました。漁獲量の 85%がシイラで 15%がヒラマサとなっています。昨年に比べヒラマサの量は減っていますが、シイラは大幅に増加し 6 月の漁獲としては近年最高の量となっています。しかし、ヒラマサの減少と魚価安の影響で、1 隻当りの水揚げ金額は 295 万円と昨年に比べ大幅な減少となりました。

【定置網漁業】

県下各地とも漁獲量は前月を上回りましたが、生産金額は浜田を除いては前月並みにとどまっています。浜田も、平年および前年同月に比較すると、マアジ、トビウオ類の漁獲量が極めて低調に推移しており、生産金額は平年、前年同月の 60%程度にとどまっています。主な水揚げ魚種はマアジ、ブリ、ケンサキイカ、トビウオ類で、ケンサキイカは県下全域で好調な水揚げを示していました。

【釣・縄】

出漁二数が前年及び前月を 30～40%上回り、沿岸の釣は比較的好調な漁模様となりました。浜田はケンサキイカ、スルメイカ、アマダイ、マアジを中心に 37.7 トン、3,152 万円の水揚げで、量は 40%、金額は 30%、前年を上回っています。五十猛はケンサキイカ、スルメイカ、カサゴ類、マダイ主体の漁で、18.6 トン、1,327 万円の水揚げで、量は 65%、金額は 40%、前年を上回りました。

漁獲統計

平成 11 年 6 月 1 日～30 日

漁業種類	水揚げ港	延隻数・統数	主要魚種	1 隻(統)1 航海当漁獲量	総漁獲量
中型まき網	浜田	70	マアジ・スルメイカ・ケンサキイカ	3.6 トン	253 トン
	恵曇	134	マアジ・マイワシ・カタクチイワシ	4.4 トン	589 トン
	浦郷	101	マアジ・マイワシ	20.1 トン	2,025 トン
イカ釣り	浜田(沖合)	399	スルメイカ・ケンサキイカ	71.8 箱	28,662 箱
	浜田(沿岸)	468	ケンサキイカ	11.1 箱	5,197 箱
	西郷	324	スルメイカ	132.1kg	42.8 トン
パイかご	大田市	39	エッチュウバイ	912kg	35.6 トン
	和江	13	エッチュウバイ	836kg	10.9 トン
	平田市	13	エッチュウバイ	721kg	9.4 トン
シイラまき網	仁摩	8	シイラ・ヒラマサ	1,175Kg	9.4 トン
	五十猛	20	シイラ・ヒラマサ	1,285Kg	25.7 トン
	和江		シイラ・ヒラマサ	Kg	96.6 トン
	大田		シイラ・ヒラマサ	Kg	12.4 トン
定置網	浜田	69	ブリ・ケンサキイカ・マアジ	766kg	52.8 トン
	恵曇	72	マアジ・トビウオ類・ケンサキイカ	299kg	21.5 トン
	浦郷	25	マアジ・ケンサキイカ・ブリ	1,442kg	36.1 トン
釣・縄	浜田	1,906	ケンサキイカ・スルメイカ・アマダイ	19.8kg	37.7 トン
	五十猛	691	ケンサキイカ・スルメイカ・カサゴ類	27.0kg	18.6 トン

1 隻(統)1 航海当漁獲量は総漁獲量 / 延隻数・統数で算出しており四捨五入した値です。

お詫びと訂正 先月号の漁獲統計データのまき網の部分に誤りがありました。正しい数値は、延隻数・統数は浜田が 42 隻、恵曇が 63 隻、浦郷が 74 隻、主要魚種は浜田がマアジ、恵曇がカタクチイワシ・マアジ・マイワシ、浦郷がマアジ・マイワシ、1 隻(統)1 航海当漁獲量は、浜田が 5 トン、恵曇が 10 トン、浦郷が 30 トン、総漁獲量は浜田が 216 トン、恵曇が 600 トン、浦郷が 2,228 トンでした。お詫びして訂正いたします。